

大島のきれいな 海のめぐみの 再生に住民が結束

地場水産業振興のために地域の 閉校校舎を有効活用

大島漁業集落 代表
花谷 幹春
(八幡浜市)



私達の住む大島

私達の住む大島は、八幡浜市からフェリーで25分、大小5つの島(大島、三王島、地大島、粟ノ小島、貝付小島)を合わせて「大島」と呼ばれています。地形は急傾斜が多く標高167mの三能山が最高峰、佐田岬半島宇和海県立公園に含まれ、山には亜熱帯植物が茂り、浜辺にはハマユウの花が咲き、亜熱帯植物アコウの自生分布では、愛媛県の北限となっています。



海面養殖給餌作業

また、島の周囲は絶好の釣りスポットとなっており、夏は海水浴やキャンプ客とともに多くの釣り人が訪れています。
**地域が一体となって
地域課題解決を**

こんな大島も少子・高齢化の波が押し寄せ、島内唯一の大島小中学校が2009年に閉校して少し淋しい思いをしています。そして、大島周辺はアワビや海藻類などの良好な漁場にもかかわらず、高齢化により漁業従事者が減少し、地域の豊富な漁業資源の活用が図られなくなっています。このため、高齢化の進

む島で安定的に、そして安全に漁業に従事することが、地域の大きな課題となっていました。
なにか妙案はないだろうかと思案していたところ、離島漁業再生支援交付金事業を活用し、閉校となった校舎を活用したアワビ、ナマコなどの磯根資源の陸上養殖に取り組むことになりました。

地域住民による養殖施設の運営

閉校校舎に整備した養殖施設で、近くの海から海水を引き入れ、アワビ、ナマコの陸上養殖試験に取り組んでおり、給餌・清掃及び飼育データの記録作業を数班に分けて行っています。これまで、アワ



施設内風景

陸上アワビの様子



ビの養殖試験は順調に進んでおり、種類や餌の違いによる成長差も出てきており、通常3年かかる出荷までの期間を短縮させるのに必要なデータが取得できています。

また、周辺海域の種苗放流による天然資源維持のため、2012年は、クロアワビの種苗放流を行いました。放流した種苗の歩留まりを良くするため、魚による被害が少なくなる夕方暗くなってからの放流を行うなど、これまで漁業で培った経験・知識を活かしながら、創意工夫により水産資源の増大と栽培漁業の推進を図っています。

地元産品の開発・販売

また、昨年度から取り組んでいる大島産ナマコの活用においては、収益性の向上を図るため、加工製品の開発にも取り組み、乾燥ナマコの製造過程で出る煮汁を利用した洗顔石鹸の「大島のめぐみ石けん」を開発し、大島の名物として販売しています。これは、乾燥ナマコを製造する過程で出る、ナマコの煮汁で手がス

べスベする効果があることに着目し、煮汁に瀬戸内海の塩を合わせ、さわやかなラベンダーの匂いをほのかに付けた、地域住民のアイディアにより出来上がった加工品です。大島での最終製品までの加工には難しいものがありますが、加工業者へ提供できる形態の加工品であれば、大島でも製造することができ、今後のナマコの収益性向上と地域の就業場所の確保に繋がっていくと思っています。

これからの取り組み

これからの取り組みについては、地域住民が参加する会合等を随時開催し、自由な発想で意見を出しながら検討を進めており、連帯意識の醸成に繋がっています。引き続き、地域住民が一体となり、



アワビ搬入作業



アワビ選別作業

アワビなどの陸上養殖に取り組み、養殖技術の習得と高齢者にも対応できる省力化した養殖施設を工夫することで、高齢の漁業者や女性も参加することができ、若い人が帰ってきて安心して生業として取り組むことができるよう、使用されなくなつた島内の公共施設を活用しながら、新たな養殖業の推進を図っていきたくと考えています。

さらには、アワビなどの地域資源の安定生産にとどまるだけでなく、加工など6次産業化への進展も視野にいれる必要があるのではないかと考えています。

これからも、生まれ育つた島で、島の自然を生かしながら、地域が抱える課題解決のために、地域の住民が主体となつて取り組んでいきたいと思っています。